

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	15-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Decompensated alcohol related liver disease: acute management. 非代償性アルコール性肝疾患の急性期治療に関する叙述的レビュー		
執筆者		
McPherson S, Lucey MR, Moriarty KJ.		
掲載誌		
BMJ. 2016 Jan 26; 352: i124. doi: 10.1136/bmj.i124.		
キーワード		PMID
アルコール性肝疾患、肝硬変、非代償性、急性期治療		26812946
要 旨		
<p>非代償性アルコール性肝疾患（Alcohol Related Liver Disease: ARLD）および肝硬変は、長期多量飲酒者の 10～20%にみられる、黄疸、凝血障害、静脈瘤出血などを含む複合疾患である。ARLD の急性期死亡率は 1 ヶ月あたり 10～20%と高値である。</p> <p>免疫低下による感染症、アルコール性肝炎、急性腎障害、消化管出血、肝性脳症などを合併しやすく、これらの早期な積極的治療を実施することにより予後を改善することが可能。</p> <p>腹水により入院した患者は“無症候性”急性細菌性腹膜炎を有していることが多いため、すべからず診断的穿刺を受けさせる必要がある。凝血障害を有する患者にも診断的穿刺が勧奨される。</p> <p>急性 ARLD は長期の禁酒が最も重要な治療法である。患者の予後が不良でない限りは、長期の禁酒を達成させるためにあらゆる手段を用いるべきである。</p> <p>急性期病院は急性 ARLD 患者向けの相談室および多職種からなる治療チームを設けるべきである。</p>		